

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
23202	栄養カウンセリング実習 Nutrition counseling practice	熊崎稔子			1	必修	2後期

**科目の概要**  
 栄養士として、人々の生涯にわたる健康を保持・増進し、生活習慣病の予防に向けた提案を、専門知識、社会人基礎力、pisa型学力を総合的に身につけて実施できるようにする（ディプロマ・ポリシー④）。この科目では、クライアントの健康状態や食行動が望ましくなるように変容させ、QOL（生活の質・人生の質）の向上に貢献できるようにする。そのために、「栄養カウンセリング」で修得したカウンセリングの知識や技術の理論を活かして問題解決し、実践の場で活かせる技術を修得する（ディプロマ・ポリシー②③）。様々なケースを設定し、ロールプレイを取り入れてカウンセリングを行い、その後、互いに評価し、技術の向上を図る。カウンセリングの専門知識を活かして、クライアントの食生活の問題を解決する力を養う。これらの学修の根底には建学の精神がある（ディプロマ・ポリシー①）

学修内容	到達目標
① 受容と傾聴を実践することで身につけ、さらにクライアントの気持ちを理解する。 ② 生活習慣病の病態を理解したうえで、栄養カウンセリングのトレーニングを行う。 ③ 様々なケースを設定してカウンセリングを計画・実施し、他の学生から評価を受け、技術の向上を図る。 ④ 栄養報告書を作成する力を養う。	① 受容と傾聴を実践することで身につけ、さらにクライアントの気持ちを理解することができる。（ディプロマ・ポリシー①②に相当する） ② 生活習慣病の病態の知識を活かして問題を解決し、適切な栄養カウンセリングができるようにする。（ディプロマ・ポリシー③に相当する） ③ 様々なケースを設定してカウンセリングを計画・実施し、他の学生から評価を受け、技術の向上に努めることができる。（ディプロマ・ポリシー③に相当する） ④ これまでに獲得した知識を統合させ、問題を解決して栄養報告書を作成できるようにする。（ディプロマ・ポリシー④に相当する）

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性 カウンセリングに関する知識や技術について、教科書・文献などで、自己学修することができる。カウンセリング技術の修得のために自ら練習をすることができる。日常生活において、場面に応じて正しい言葉遣いに心がける。
	働きかけ力
	実行力 対象者に適したカウンセリングの手順や方法を考え、確実に目標に向かって進めることができる。
考え抜く力	課題発見力 思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。
	計画力 決められた時間内で、カウンセリングを的確に実施することができる。計画通り進まない時は、計画を見直し修正できる。
	創造力 対象者を理解し、対象者の心理的な距離を縮めるために、いろいろな方向からアプローチすることができる。
チームで働く力	発信力 支援計画に従って、対象者に寄り添った支援となるよう、解りやすい支援の仕方（声の大きさ、スピード等）を工夫することができる。
	傾聴力 対象者の相談内容を聴き取り、即座に正しくまとめ、相談内容を対象者に確認することができる。他のカウンセリング（演習）を見て、批判ではなく、よりよいものになるように自分の意見を述べるすることができる。
	柔軟性
	状況把握力
	規律性 遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力

**テキスト及び参考文献**  
 テキスト：「栄養指導論」相川忍子、（株）建帛社（1年次、栄養教育で使用したもの）  
 「応用栄養学 ライフステージ別の栄養ケア・マネジメントを正しく理解するために」北島幸枝、（株）化学同人（1年次、ライフステージ栄養で使用したもの）  
 参考文献：授業の中で適宜資料を配布（文献・新聞記事等）

**他科目との関連、資格との関連**  
 他科目との関連：栄養学、食品学、臨床栄養学、栄養教育、栄養教育実習、栄養カウンセリング  
 関連する資格：栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
栄養や病態の知識をもとに、上手く相手の行動変容を導く技術が必要となる。そのために基礎知識を、わかりやすい言葉で説明できるようにしておくこと。 健康関連の情報を新聞や専門雑誌などから収集し、スクラップする習慣をつけるとよい。	授業内容を理解するための努力をし、分からないことは質問すること。 社会人基礎力の規律性を守ること。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験	0	①			
			②			
			③			
			④			
	平常評価	小テスト	30	①		
				②		
				③		
				④	✓	
		レポート	30	①	✓	
				②	✓	
				③	✓	
				④		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓			
		②	✓			
		③	✓			
		④				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		
			②	✓		
			③	✓		
			④	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>S (秀) : 総合評価90点以上。カウンセリング技法の基礎である受容と傾聴を理解し、支援計画に沿って栄養カウンセリングができ、さらに栄養報告書をポイントをおさえて作成することができる。</p> <p>A (優) : 総合評価80点以上。カウンセリング技法の基礎である受容と傾聴を理解し、支援計画に沿って栄養カウンセリングができ、栄養報告書を作成することができる。</p>	<p>B (良) : 総合評価70点以上。カウンセリング技法の基礎である受容と傾聴を理解し、栄養カウンセリングができ、栄養報告書を記入できる。</p> <p>C (可) : 総合評価60点以上。カウンセリング技法の基礎である受容と傾聴を理解し、栄養カウンセリングができるが、栄養報告書の記入が十分でない場合。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	◆オリエンテーション ◆栄養アセスメント 身体測定の実際とその評価の仕方 血液検査の検査項目とその意味	講義 演習(PC活用: NotebookLM) 質問を受け、フィードバックする	各検査項目の意味、食事の影響が説明できる。特殊な身体計測や推定算出式を活用できる。	<復習>栄養ケア・マネジメントの定義やプロセスについてまとめる。 <予習>PDCAサイクルについて流れを理解する。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2	◆栄養ケアプログラム 栄養ケアプログラムの計画のたて方	講義 演習(PC活用: NotebookLM) 質問を受け、フィードバックする	目標設定のポイントと対象者に合った目標値を求めることができる。	<復習>対象者に合った目標値の求め方。 <予習>ライフステージ別の特徴をまとめる。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3	◆栄養カウンセリングの症例研究Ⅰ 6グループにわかれ、ライフステージ別の6事例についてカウンセリングの流れを考える。クライアントの抱える問題点から解決策を考える。	講義(PC活用: NotebookLM) グループワーク 質問を受け、フィードバックする	各事例からクライアントの抱える問題点を見出すことができる。	<復習>グループワークの内容を見直す。 <予習>栄養カウンセリングの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4	◆栄養カウンセリングの症例研究Ⅱ 3週で計画したカウンセリング(大学生、妊娠期)のプレゼンテーションする。	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	大学生、妊娠期のライフスタイルを理解し、説明できる。	<復習>カウンセリングにおけるクライアントを理解することについて考える。 <予習>栄養カウンセリングの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5	◆栄養カウンセリングの症例研究Ⅲ 3週で計画したカウンセリング(乳児の母親、思春期)のプレゼンテーションする。	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	乳児の母親、思春期の部活をしている生徒のライフスタイルを理解し、説明できる。	<復習>カウンセリングにおけるクライアントに寄り添う意義について考える。 <予習>栄養カウンセリングの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6	◆栄養カウンセリングの症例研究Ⅳ 3週で計画したカウンセリング(更年期、高齢期)のプレゼンテーションする。	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	更年期を迎えた女性、独居の高齢者のライフスタイルを理解し、説明できる。	<復習>対象者の性別や年齢に合わせたカウンセリングについてまとめる。 <予習>指定した5病態について、病態、食事療法等をまとめる。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7	◆病態の模擬栄養教室Ⅰ 2人1組で5病態のうち1病態を選び、栄養教室を行うためのパワーポイント作成をする。病態となる食事の問題点を見出し、解決策を考える。	講義 グループでパワーポイントを作成する(PC活用: NotebookLM)	栄養教室の講師として、適切な指導内容を提示することができる。	<復習>自身の担当する病態について理解を深める。 <予習>栄養教室のプレゼンテーションの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8	◆病態の模擬栄養教室Ⅱ 糖尿病を予防するための栄養教室のプレゼンテーション	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	糖尿病の病態と食事の影響を説明できる。	<復習>糖尿病の病態と食事療法についてまとめる。 <予習>栄養教室のプレゼンテーションの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	◆病態の模擬栄養教室Ⅲ 脂質異常症を予防するための栄養教室のプレゼンテーション	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	脂質異常症の病態と食事の影響を説明できる。	<復習>脂質異常症の病態と食事療法についてまとめる。 <予習>栄養教室のプレゼンテーションの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10	◆病態の模擬栄養教室Ⅳ 高血圧症を予防するための栄養教室のプレゼンテーション	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	高血圧症の病態と食事の影響を説明できる。	<復習>高血圧症の病態と食事療法についてまとめる。 <予習>栄養教室のプレゼンテーションの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	◆病態の模擬栄養教室Ⅴ 肥満症を予防するための栄養教室のプレゼンテーション	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	肥満症の病態と食事の影響を説明できる。	<復習>肥満症の病態と食事療法についてまとめる。 <予習>栄養教室のプレゼンテーションの練習をする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	◆病態の模擬栄養教室Ⅵ 骨粗鬆症予防するための栄養教室のプレゼンテーション	プレゼンテーション後、内容についてフィードバックする(PC活用)	骨粗鬆症の病態と食事の影響を説明できる。	<復習>骨粗鬆症の病態と食事療法についてまとめる。 <予習>栄養報告書の記録方法に関する資料を配布するため、資料を熟読する。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	◆栄養報告書の作成Ⅰ 栄養報告書の作成方法。 糖尿病のサンプル症例を用いて栄養報告書の作成をする。	講義 演習 質問を受け、フィードバックする	栄養報告書をおおむね作成することができる。	<復習>糖尿病の栄養報告書の作成について見直す。 <予習>高血圧症の食事療法について見直す。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	◆栄養報告書の作成Ⅱ 高血圧症のサンプル症例を用いて栄養報告書の作成をする。	講義 演習 質問を受け、フィードバックする	ポイントをおさえ、栄養報告書を作成することができる。	<復習>高血圧症の栄養報告書の作成を見直す。 <予習>高齢期の身体的・精神的特徴や嗜好などを理解する。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	◆栄養報告書の作成Ⅲ 高齢期のサンプル症例を用いて栄養報告書の作成をする。 提示したサンプル症例をもとに栄養報告書を作成する(まとめテスト)。	講義 演習 まとめテスト後、解説をしてフィードバックする	ポイントをおさえ、人が読んで分かりやすい栄養報告書を作成することができる。	<復習>半期の授業内容を復習する。「栄養カウンセリング」「栄養カウンセリング実習」の総まとめをする。	60	主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力